

## 私の暮らし

青垣中学校 3年 野田 姫華

皆さんは毎日、家族と暮らしていて、幸せだと感じたことはありますか？ ほとんどの人は、それは当たり前のことで、毎日幸せだと感じているかどうかは、意識しているかどうかの違いくらいだと思います。家族と一緒にご飯を食べたり、出かけたり、笑ったりと毎日、家族と暮らしている人が多くいます。ですが、私はそのような幸せを感じることはできません。なぜなら、私は家族と長い間会っていないからです。私と同じように家族と会えず、たくさんの子供たちが児童養護施設へと預けられています。児童養護施設とは、保護者がいない子供や、様々な理由で保護者と暮らすことができない子供を養護するところです。

私が児童養護施設「睦の家」に暮らすようになったのは、四歳の頃でした。児童養護施設に暮らす前は、兄二人、姉二人、弟一人、私と両親の計八人の大家族でとても幸せに暮らしていました。ところが、私が一歳の頃に母が重い病気にかかってから、父一人で会社に行けず、母の看病をしながら、五人の子供を育てていました。ですが、育てることには限界があり、まだ幼い私と弟は睦の家という児童養護施設に預けられました。十年前のことなので、私には家族との記憶がほとんどありません。

「睦の家」に住むようになった最初の頃、家族に会いたくて、不安ばかりでたくさんの子供たちと同じように、ずっと泣いていました。いつか迎えに来てくれると思い、ずっと窓から外を眺めたり、時には外に飛び出したりしたこともありました。そういうとき、施設の先生方は母親のように接してくれました。どんな時でも側にいてくれました。揺れ動く心をしっかり受け止めてもらい、その時、その時を乗り越えていくことができました。簡単な言葉ですが、嬉しかったです。私はこうして今は安心して暮らすことができます。睦の家に暮らしている、他の子と仲良くなり、遊んだり、時には喧嘩もしたりしますが、とても楽しく過ごすことができます。

そんな中、私が小学四年生の時に同級生の子に

「睦っていいなー。親がいないから親と喧嘩せずに済むし、私も住みたい。」

と言われたことがありました。私は周りからそんな風に思われていたのかと、とてもびっくりしました。「好きで施設で暮らしていないのに……家族から離れるという気持ち分かっていない！」と思いました。でも、周りから見れば、自分と同じように学校に通い、勉強道具もそろえられ、お茶やお弁当を持たせてもらい、何不自由なく

暮らしているように見える私たちを、そんな風に思われても当然だなあと、今は思います。それでも、心のどこかで睦の家で生活する私たちのことをちゃんと知ってほしいと思っています。

そんな中、一学期の終わりに野村恵子先生のお話を伺いました。今まで「睦っていいよなあ。私も住みたい。」と言われるたび、みんなは養護施設の子の気持ちを分かってくれないと思っていました。しかし、野村先生の講演会で「自分を生んでくれてありがとう」と母へ感謝の気持ちでいっぱいになりました。

母は私が六歳の頃に亡くなっています。私はずっと「私が生まれたから、母が亡くなってしまった」と思い、ずっと自分のことが嫌いでした。しかし、施設の先生方はその心を癒し、私だけではなく、傷ついたいろんな子どもたちに、親のように接してくれ、いつの間にかみんな家族のように思うことができました。そして、周囲が養護施設のことを理解してくれない……のではなく、私が、理解してもらえるように一生懸命頑張ろうと思うようになりました。中学三年生、進路を見つめ、自分ができることを探していきたいです。今まで育ててくださった睦の先生に感謝しています。そして、天国にいる母に「いつも頑張っているね！」と見守ってほしいです。